

臨床研究の実施に関する情報公開

静岡県立総合病院では、臨床研究倫理委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

本研究について	<p>本研究は、静岡県国民健康保険団体連合会が市町国民健康保険および後期高齢者保険加入者の方の健診受診結果、医療レセプト、介護保険審査データを突合して、匿名化処理をした上で静岡県立総合病院に提供した資料を用いて行います。</p> <p>研究対象者に対して、利用目的を含む本研究についての情報を静岡県立総合病院・静岡県国民健康保険団体連合会・静岡県のホームページ上に公開します。</p>
研究課題名	静岡県市町国民健康保険および後期高齢者保険加入者のデータベースによる医学的エビデンスの創出のための解析研究 - 多剤併用と大腿骨近位骨折の発症リスク -
研究機関名	静岡県立総合病院
研究責任者	研究支援室 望月亜希子
研究期間	2020年1月から2020年9月
対象者	2012年度以降の静岡県市町国民健康保険あるいは後期高齢者保険加入者
当該研究の意義・目的	<p>高齢者は、若年者に比べて薬物有害事象の発生が多く、その要因としては、疾患上の要因、機能上の要因が考えられます。疾患上の要因としては、複数の慢性疾患を有するために多剤併用(多くの医薬品を使用すること)や長期投与になりやすいこと、機能上の要因としては、加齢変化によって薬が体から排泄されるのが遅くなることによる過量投与や、視力・聴力の低下による誤服用の可能性などが起こり得ます。</p> <p>今回の研究では多剤併用の問題に着目しており、この問題は、「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン」の2015年改訂版でも挙げられています。多剤併用の問題は、薬剤費の増大、服用の手間による生活の質(Quality of life:QOL)の低下など複数ありますが、最も重要な問題は、薬物有害事象の増加とされています。</p> <p>過去に行われた研究では、国内の外来患者での使用薬剤数と転倒の発生の関連を解析したものがあり、5種類以上の薬剤の使用で転倒の発生率が高いという結果が報告されています。</p> <p>本研究では、静岡県市町国民健康保険・後期高齢者保険の加入者における医療・介護レセプトデータを用いて、多剤併用の有無が大腿骨近位部骨折の発症の原因になるかを検証することを目的とし解析を行います。</p>
方法および研究で利用する試料・情報について	静岡県国民健康保険団体連合会からハードディスクに保存して提供された2012年度以降の静岡県市町国民健康保険加入者および後期高齢者保険加入者の匿名化された健診結果、医療レセプト

	<p>データ、介護保険審査データの突合データを用いて、当院リサーチサポートセンターにおいて解析を行います。なお、データは研究対象者個人を直接特定できる情報を取り除いた状態で研究に利用されます。</p>
<p>個人情報の開示に係る手続き</p>	<p>個人情報の開示に係る手続きは、下記の問合せ先にご相談ください。</p>
<p>資料の閲覧について</p>	<p>あなたからのご要望があれば、この研究において開示が可能であると考えられる範囲内で、この研究の計画や方法についての資料をご覧いただくことができます。</p>
<p>問合せ先</p>	<p>◆その他、この研究に関するお問い合わせ、苦情等ございましたら下記へご連絡ください。 静岡県立総合病院 研究支援室 望月亜希子 代表 054-247-6111</p>